

源平の興亡について

秦 千春

目次

序論 源平合戦とは

本論 本当の意味での平氏滅亡は戦国時代である

1 源平交代説

2 江戸幕府滅亡後明治維新で活躍した人々

結論

序論 源平合戦とは

源平合戦(治承・寿永の乱)というとは一般的には以仁王の挙兵(1180)¹～壇ノ浦の戦い(1185)での平氏の滅亡までを言う。

しかし、実際に源氏と平氏との対立は“保元・平治の乱”や、直接対決以外にも治承・寿永の乱に含まれていない前史があり、また“奥州合戦”²の終結までが治承・寿永の乱であるという見解³等様々な意見があって、単純にいつからいつまでが源平合戦であるかということは一概に言うことができない。今回は諸説ある中から私が他の説とは異なった点に着目して考えられていて面白いと感じた説を紹介する。

¹ 治承 4 年(1180)以仁王と、源頼政が“打倒平氏”のための挙兵を計画し、諸国の源氏、大寺社に放棄を促す令旨を発した。

² 奥州合戦とは、文治 5 年(1189)7 月から 9 月にかけて鎌倉政府(源頼朝)と奥州藤原氏との間で行われた一連の戦いの総称。源頼朝による武士政権確立のきっかけとなった。

本論 本当の意味での平氏滅亡は戦国時代である

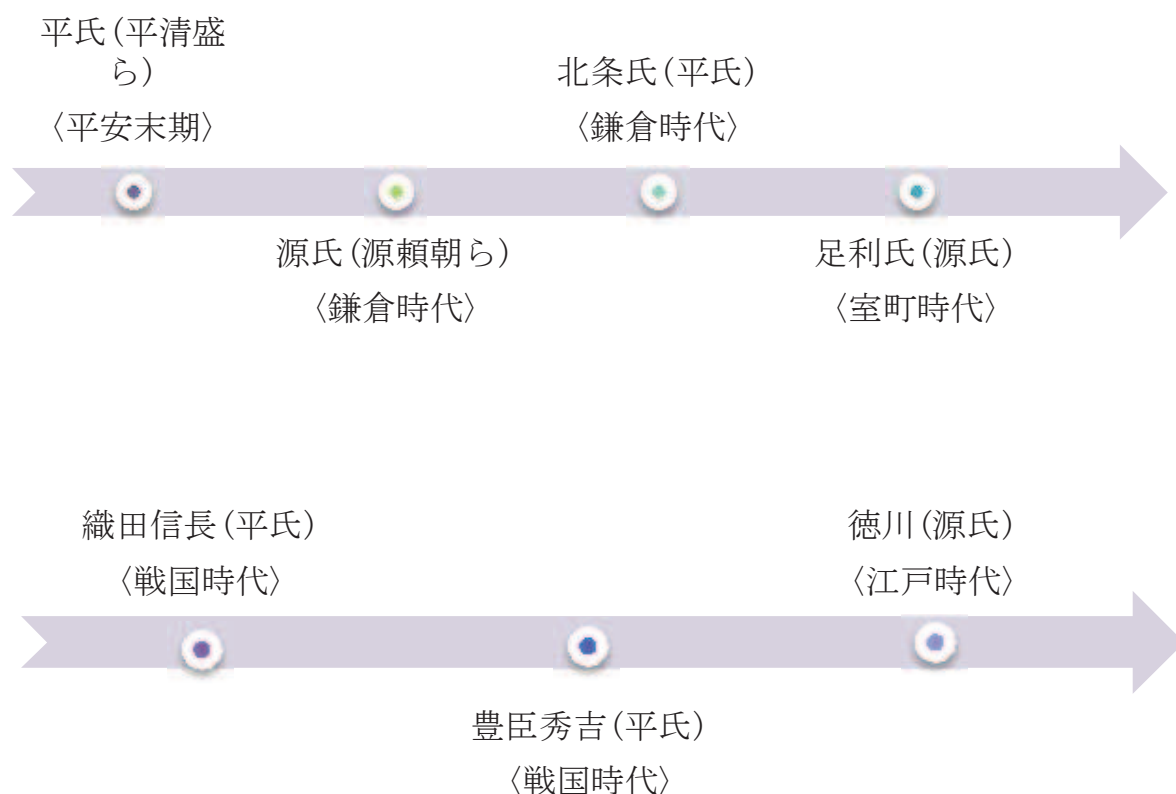
1. 源平交代説

この説は戦国時代から存在しており織田信長が自分が天下統一することの正当性を主張するのに用いられたという。その時代の文献には“信長が平氏である”、“織田は元をたどれば平氏である。よって天下をとるのは信長である”という旨の記述が残されている。

一般的には平氏の滅亡＝壇ノ浦の戦いと考えられているが、壇ノ浦の戦いで滅んだ平氏はごく一部に過ぎず、後の時代に平氏系の有力大名が再び台頭したこともあった。

このため源平交代説(平清盛による平家政権の樹立から源氏と平氏が交代で政権を握るという説)に基づいた考え方がいわれるようになった。その根拠として下図をみると解りやすいだろう。

〈源平交代説〉



上記からわかる通り平氏、源氏の大名が交代で各時代の中心人物となっている。しかし、本能寺の変、小田原征伐で平氏系の有力大名はほぼ滅びてしまった。

江戸幕府(徳川)滅亡後の明治維新に活躍した人々の中にも平氏系的人是なく、平氏の血を継いでいそうな人も維新後すぐに亡くなっていて平氏が再び台頭することはなかった。これらのことから、平氏の本当の意味での滅亡は戦国時代と言えるのではないか。

2. 江戸幕府滅亡後

ここからは、江戸幕府滅亡後に活躍した人々の中に平氏系、源氏系がないか調べてみた。

●明治維新で活躍した人々

(公家)

三条実美(右大臣; 1868-1871年 太政大臣 1871-1885年
内大臣 1885-1891年 内閣総理大臣: 1889年) 藤原氏
岩倉具視 岩倉家

(岩倉家は^{うりん}羽林家の家格を有するが村上源氏久我家から江戸時代に分家した新家)

(薩摩)

西郷隆盛(参議: 1871-1873年) 菊池氏の一族西郷氏。菊池氏の大本は藤原氏(藤原北家)

大久保利通(内務卿: 1873-1878年) 藤原氏

黒田清隆(内閣総理大臣: 1888-1889年、1896年) 不明

小松清廉 ^{ねじめ}禰寝氏

禰寝氏は江戸時代に直系は平氏であると主張しているが信

憑性は低い

(長州)

木戸孝允（桂小五郎）（参議 1869-1874 年 文部卿：1874 年
内務卿：1874 年） 大江氏

伊藤博文 ^{おち}越智氏、もしくは藤原氏

（“伊藤” という苗字の由来が「伊勢の藤原氏」であると
されている）

井上馨 源氏

山縣有朋 山縣氏

（山縣氏の系統の一つ美濃の国山縣氏は清和源氏）

（土佐）

板垣退助 源氏（板垣氏は清和源氏の甲斐源氏系一門武田氏
の支流）

後藤象二郎 藤原氏

（肥前）

江藤新平 平氏

大隈重信 菅原氏

結論

源平交代説に基づいて考えると、源氏である徳川家が政權を握っていた江戸幕府の滅亡後には平氏の人間が台頭してくると考えられるが、明治維新で活躍した人々の中に平氏系は少なく、平氏の血を継いでいそうな小松清廉、江藤新平ともに維新後すぐに死んでしまっていて平氏が再び台頭したとは言えない。

よってこの説は正しいのではないかと考える。

【参考文献】

川合康「生田森・一の谷合戦と地域社会」歴史資料ネットワーク編『地域社会からみた「源平合戦」』（岩田書院、2007年）。

「本当の意味での平氏滅亡は戦国時代？「壇ノ浦」以降の平氏の武士たちを追う！」（2016年5月1日）〈http://munemori-taiga-project.hatenadiary.jp/entry/heike_after_dannoura〉
アクセス日 2018.05.15。

中丸満「源平興亡三百年」SBクリエイティブ、2012年。

中丸満「『その後』源平姓を名乗った武将たち」『歴史読本』, 2012年57巻5号, pp. 210 - p. 215。